

重大少年事件の実証的研究－親や家族を殺害した事例の分析を通して－



監修	:	裁判所職員総合研修所
定価	:	本体 858 円＋税
判型	:	A5 判
ページ数	:	68 ページ(本文 52 ページ)
ISBN	:	978-4-906929-00-9
発行	:	平成 24 年 5 月

内容

本書は、少年が単独で親や家族、親族を殺害したもので、審判が確定した15事例の分析を行い、重大な事件に至るプロセスを家庭裁判所調査官によるグループ研究の成果としてまとめたものです。親や家族、親族を殺害してしまった少年の特性、心理、行動とその背景事情を理解する手掛かりとして、裁判所だけでなく、少年非行に携わる実務家や関係機関の方々にも参考にしていただける研究書となっています。

目次

はじめに 研究対象、研究方法等	2 少年の生い立ちや生活状況に見られる特徴 (1) 生い立ちと非行歴など (2) 人や社会との関わりの希薄さと孤立化 (3) いじめ、不登校、引きこもり (4) インターネットやゲーム等への没頭	② 少年に精神面の不調が見られる事例 ③ 少年が虐待又は不適切な養育を受けていたと見られる事例
第1章 近年の少年による殺人事件の動向 1 少年による殺人事件は減少している 2 殺人事件の多くは単独で行われている 3 家族を被害者とする殺人事件の数、割合が増加している 4 まとめ	3 家庭及び家族関係に見られる特徴 (1) 生い立ちと非行歴など ア 親などからの虐待 イ 親の養育態度の問題 (2) 父母の関係に見られる特徴 ア 父母間の不和、葛藤 イ 親の精神面の不調、生活困難な状況 (3) 少年ときょうだいとの関係に見られる特徴 (4) 複合的に関連する家庭の問題	2 15事例に共通した非行に至るプロセス (1) 現実の生活に不応感や閉塞感を募らせる (2) 不満やいら立ちなどを一人で抱え込む (3) ささいなことでもきっかけになってしまう
第2章 事例に見られる事件の態様、少年の語る動機など 1 事件の態様 (1) 少年と被害者との関係について (2) 犯行の場所、時間、凶器について (3) 殺害を企ててから犯行までの期間について (4) 犯行の状況 (5) 犯行後の少年の行動 2 少年が語る殺害の動機について 3 まとめ	4 少年及び家族と周囲の社会との関係に見られる特徴	3 なぜ少年が親や家族、親族の殺害に及んだのか (1) 少年の孤立化と“生きる世界”の狭さ (2) 攻撃的感情を向ける対象が親や家族以外にない
第3章 少年と家庭及び家族関係等に見られる特徴 1 少年の資質に見られる特徴 (1) 年齢、性別、知能指数など (2) コミュニケーションや物のとらえ方などの特徴 (3) 精神面の不調	第4章 少年が殺人という重大な非行に至るプロセス 1 多くの事例に見られる三つの特徴と非行に至るプロセス ① 少年に視野の狭さ、思考の柔軟性の乏しさ、人とのコミュニケーションが苦手という資質面の特性が見られる事例	第5章 研究の結果からいえること 1 家族関係の大切さ 2 少年の抱える不満や悩みなどの見えにくさ 3 少年の主観的な思いをよく理解して対応する 4 少年の疾病や障害への対応の大切さ 5 少年や家庭問題に関わる機関等の連携の大切さ
		おわりに

関連書籍

図書 No.87 [重大少年事件の実証的研究](#)

(親や家族に限らず、単独、集団で通行人を襲った事例等の研究を行ったものです。)